

月刊 星空の散歩道 11月号

2024年

11月上旬 21時ごろ
11月下旬 20時ごろの空
ステラナビゲータ/
株式会社アストロアーツ



11月の星空

★宵空の主な星座と明るい星★
夏の星座は西の空、秋の星座は南と天頂、冬の星座は東の空に見えています。

- < 西 > こと座 (ベガ)、わし座 (アルタイル)、はくちょう座 (デネブ)
- < 天頂 > ペガス座、アンドロメダ座
- < 南 > みなみのうお座 (フォーマルハウト)
- < 東 > ぎょしゃ座 (カペラ)、おうし座 (アルデバラン)
- < 北 > 北極星、カシオペヤ座

天文トピック

11月5日 月と金星が並び
宵の南西の空で細い月と明るい金星が並んで見えます

11月10・11日 月と土星が並び
月のすぐ近くに土星が見えます。2日間を見比べてみると、一晩で月の位置がどれくらい変わるか、わかりやすいでしょう。

11月17日 月と木星が並び
午後7時頃、月と木星が東の空に昇り、一晩中、月の近くに木星が見えます。

月の形の変化

11月1日 新月 ●
11月9日 上弦 ◐
11月16日 満月 ○
11月23日 下弦 ◑

11月の惑星

金星…日没後、南西の空
土星…日没後、南の空
木星…真夜中、南東の空
火星…真夜中、東の空

天文コラム 紫金山・アトラス彗星

紫金山・アトラス彗星 (C/2023 A3) が話題になっています。2023年1月9日に紫金山天文台で、その後南アフリカ共和国にあるATLASシステムによって発見されました。彗星は発見した順に3人までの名前がつけられます。紫金山は現地の発音に添って「ツーチンシャン」「ツチンシャン」と呼ぶことが多いようです。

この彗星は、10月中旬頃から宵の西空に見え始め、日に日に高度が上がって見やすくなっていきますが、光度も暗くなっていくので、できるだけ早めに見つけてみましょう。

彗星は星のような点像とは違い、雲のような姿で見えます。宵の空に見える小さな飛行機雲に近いイメージです。双眼鏡があると少し見つけやすくなります。7~8倍程度の中型の双眼鏡が明るく見やすいですが、少し大型の双眼鏡で見る彗星は迫力があります。逆に望遠鏡で見ると大きく拡大されすぎて、彗星の全体像が見えづらくなります。

最近のスマートフォンは高機能化しており、目で見えていなくてもおおよその位置を把握して撮影してみると、写っていることがあります。写真から位置を特定する方法もあります。10月13日には「宵の明星」の金星と同じくらいの高さ、翌14日は金星よりも少し高度が上がります。このように目印になる星との位置関係を調べて探すのもよい方法です。

今のところ、この彗星が地球に近づくのは今回限りです。太陽系の彼方から長い年月をかけて訪れた宇宙の旅人を、地球という特等席から眺めてみませんか？

(2024年10月11日現在情報)

伊丹市立こども文化科学館 発行日 2024年10月11日
〒664-0839 兵庫県伊丹市桑津3丁目1-36 TEL: (072) 784-1222
HP: <http://business4.plala.or.jp/kodomo/>

